

ITスキル実習2

スマホ見過ぎ防止アプリ

NE20-1037A 峯岸七海

普段スマホをどのように利用していますか？

概要

- 長時間のスマホ利用を防ぐ
 - 同じ体勢で長時間スマートフォンを利用すると通知
 - 体を動かすことで通知されない

課題と目的

- 休みの日はスマホをずっといじりがち
- 同じ体勢でほぼ動かない
 - 体が痛くなる...

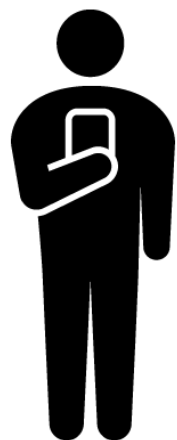


こまめに動いて解決！

想定するユーザ

- 普段からスマホをよく利用
- ソファ、ベッドなど座って & 片手で利用
- 画面が近くなりがち
- 休みの日はもっと使う → 体の一部が痛い
- 大学生

利用イメージ

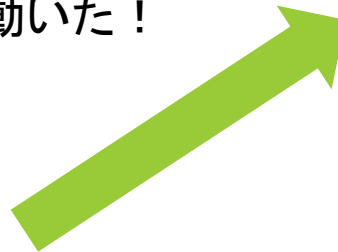


利用開始



動きを記録

動いた！



通知なし

基準に基づき判断

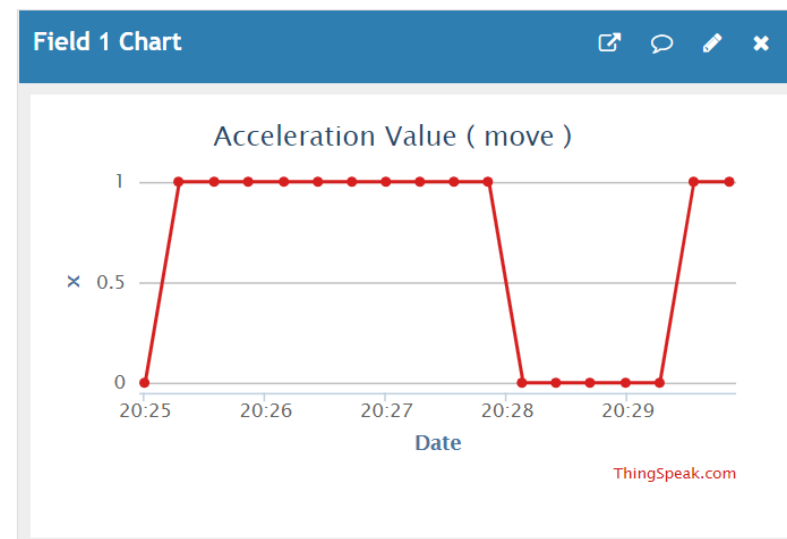
動いてない...



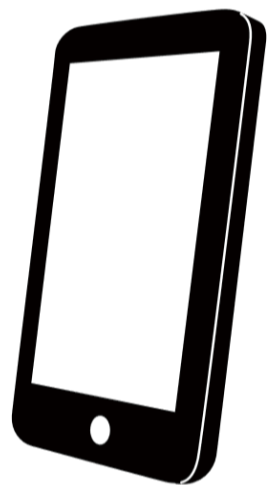
通知が...！

システム説明

ThingSpeak



センサーの値送信



スマホへ

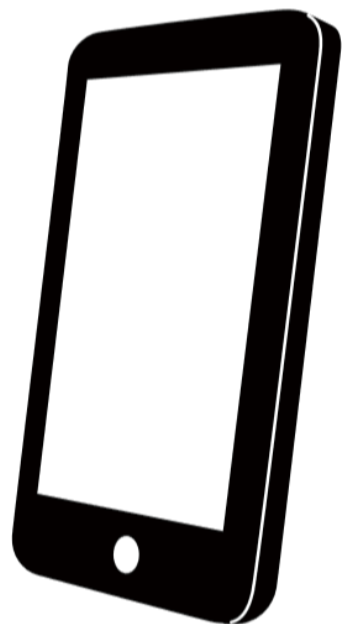
加速度センサー

動いてない

ほとんど動いていません！
スマホ操作をやめて少し動きましょう。

通知

完成したところ

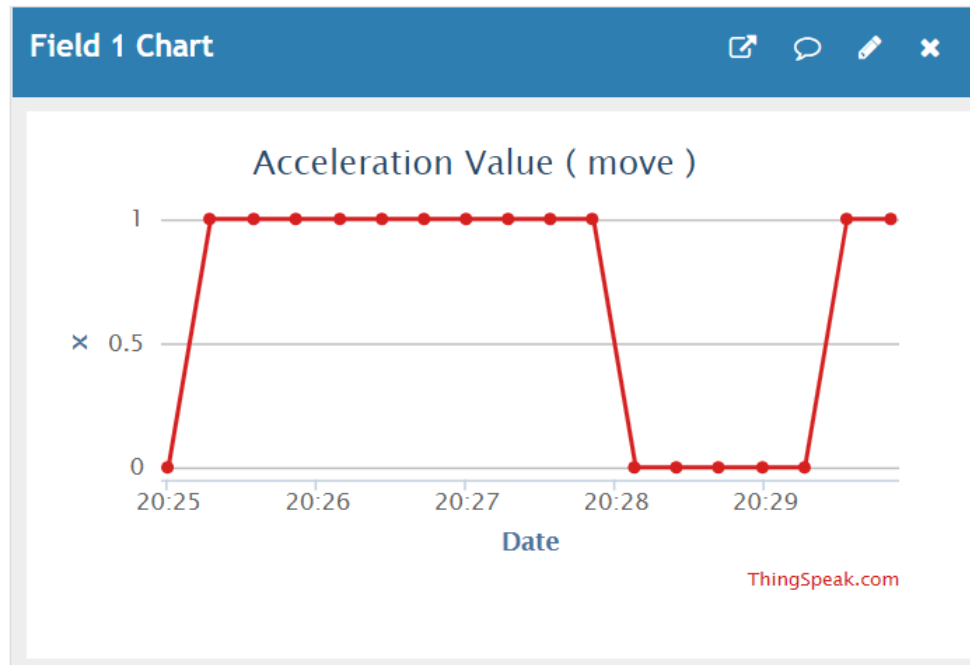


加速度センサー

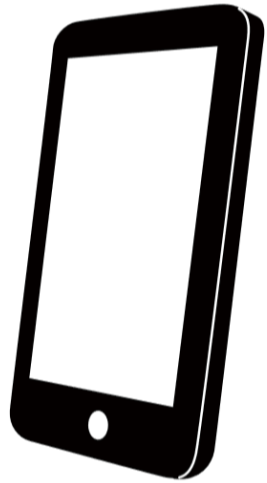
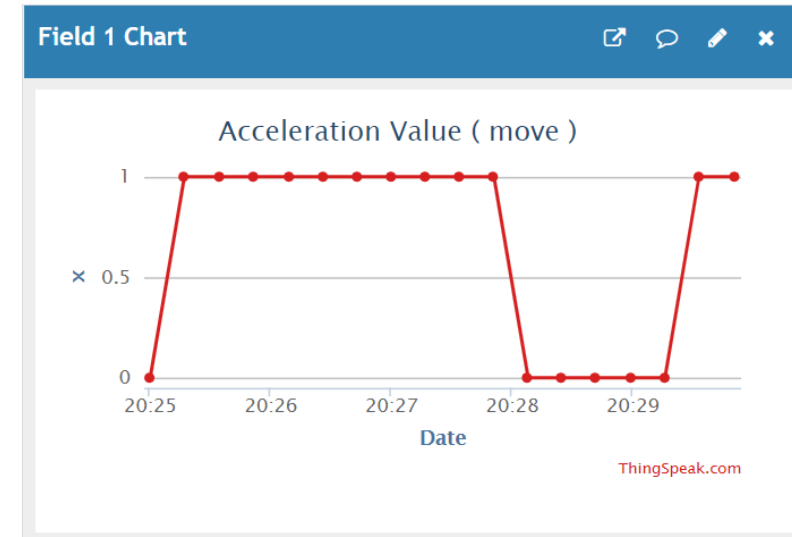
センサーの値送信



ThingSpeak



できなかったところ



加速度センサー

スマホへ

動いてない

ほとんど動いていません！
スマホ操作をやめて少し動きましょう。

通知

判定について

- 基準値
 - 5分間動かずにスマホを持った時の平均
- 動いた
 - 歩き回る、机や床に置くなど
- 動いていない
 - 座ったまま、画面が顔に近い
 - 持ち替えた程度では動いたことにならない

使用するセンサー

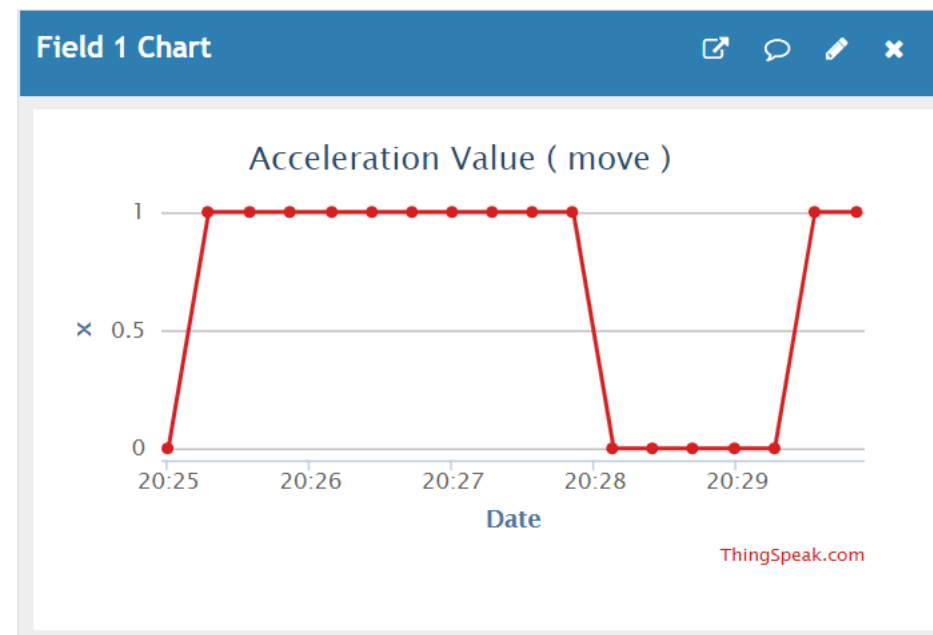
- スマートフォンの加速度センサー
 - 値をJavaScriptで取得
 - 定期的に値を取得、平均算出
 - 動いたか、動いていないかThingSpeakへ



データ記録

- ThingSpeak

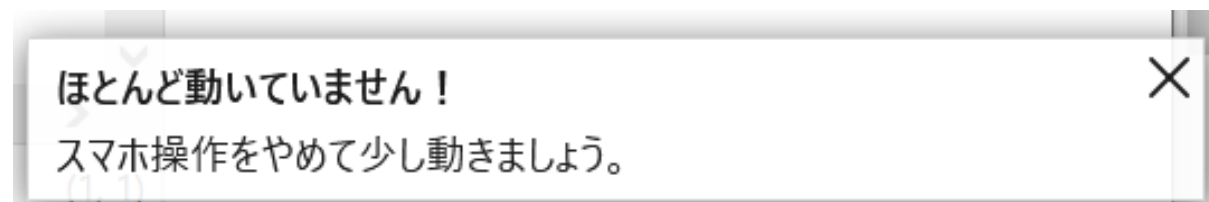
- 1が動いた、0が動いていないを記録
- JavaScriptから1か0を受信
 - 未実装
 - 一定のデータ量ごとにデータを送信



ThingSpeakの動いたり座ったりしたデータ

通知方法

- プッシュ通知
 - 未実装
 - ThingSpeakからのデータ使う
 - 長時間動かずにいると来る



画像はイメージです

まとめ

- 同じ体勢でスマホをいじることを防ぐ
- スマホをよくいじる大学生向け
- センサーの値取得とThingSpeakへ送信まで完成
- 基準値は5分間動かなかった平均
- 主に加速度センサー、ThingSpeakを利用